vol.436

mj "高は高才、信は信頼、情報はマック"
THE MAC JOURNAL
三菱商事アグリサービス株式会社

◆ 2014年7月23日発行ラインナップ ◆
・実習田で多収研究
・野菜のバラ売り拡大
・田源石灰工業㈱新工場竣工

実習田で多収研究

～長野県須坂園芸高校（その2）

当紙433号で紹介した、長野県須坂園芸高校農業経済科流通経済コースでの多収穫栽培実習のその後をレポートする。訪問当日の7月10日は台風8号が刺激した梅雨前線の影響を受けており、調査前日の9日には同県南木曽町読書地区では土石流が発生し甚大な被害に見舞われた。当日は午後より台風の影響で荒れる予報であったため生徒の安全を考慮し、一時間前倒して試験田の生育調査を実施した。空はどんよりとして生暖かい風が断続的に吹き、周囲のリンゴやぶどうの樹が揺れる、まさに台風襲来直前の天気の中で調査を実施した。

5月28日の定植から数えて43日目。最高分げつ期を過ぎて茎数が減退する時期に差し掛かっていた2品種のコシヒカリと風さやかは、虫や病気の被害も殆どなく順調に生育していたようだ。傾向として同量の施肥量でも最高分げつ期ではコシヒカリよりも風さやかの方が3割も茎数が立ち、草丈も4㎝短い。コシヒカリで葉齢は10.5葉程度、風さやかは10葉程度であった。

多肥の窒素10㎏区では草丈が70㎝前後、標準の5㎏区では65㎝前後、1株6本植え区と3本植え区では最高分げつ期に2割程度の差があったが、現在ではやや6本植えが勝るものの茎数は同数といった生育状況となっていた（平米当たりの茎数でコシヒカリは600本弱程度、風さやかで750本程度）。まだ有効茎数は確定出来ないが、現在のところ茎数としては申し分ない状況ではないと思われる。長野県ならではのコシヒカリの生育状況で、他県のコシヒカリを栽培している方々からすればうらやむほどの生育状況で同県で栽培されているコシヒカリを見たことがない方は旺盛過ぎて倒伏するのではないかと心配なされる方もおられるかもしれない。窒素肥料の施肥量の違い、即効性と緩効性の肥料の違い、1株当たりの植付本数の違いで生育度合が異なるため、初めて経験する生徒達にとってはとても良い体験をしているのではないかと思えた次第であった。次回は収穫直前の実習風景をレポートしたい。

野菜のバラ売り拡大

量販店の青果売り場を覗くと、バラ売りのスペースが拡大している事に気づかされる。店側の単価を抑えたいという思惑と、個食化・外食化で生食用販売の減少に歯止めが掛からない事に加え地場野菜等の少量野菜のニーズも高まった為と市場関係者は分析する。また販売についても従来のバラ売りは、袋詰め放題等の安売り目玉商品としての扱いが多かったが、最近は通常品より高い「チョイ高品」の付加価値商品として並べられ、方向性は変わった。その「チョイ高品」は売れ行きが好調で午前中で売り切れる商品も少なくない。事実、筆者が都内の大手量販店を巡回した際、1個売りの棚に商品

（次ページ下段へ続く）

田源石灰工業（株）新工場竣工

去る７月１１日、初夏の日差しが眩しいころ田源石灰工業株式会社（栃木県栃木市）の新工場竣工式が工事関係者、関係会社、社員、また当社からは三宅社長、山際執行役員、山本特販部次長が出席し、多くの参加を得て厳かに執り行われた。同社にとり粒状炭酸苦土工場の竣工は長年の夢でり、これにより石灰商品の全品目自社生産化が実現した。全商品が一つの工場にて供給可能になることはユーザーにとっても大きなメリットとなり、今後の販売活動に於いても大きな役割を担う。

石灰は歴史も古く、用途も非常に広いため我々の生活に密着した製品になっている。特に同社は栃木県鍋山地区での農業用石灰製造の創始者と言われており、嘉永４年（１８５１年）創業で１６３年という長い歴史を持っている。

石灰業界では近年不況が続いており新工場を建設するのは大きな挑戦となる。業界も注目している中で、長い歴史と経験、最新鋭の工場という新しい資源を融合させ、引き続き全社員一丸となり、より良い商品を効率よく生産し更なる業務拡大を図るという。これからの同社の更なる繁栄と品質の良い商品を安全に生産出来ることを参加者一同祈願しながら新工場竣工式が無事終了した。

（前ページ下段より続く）

が無かった店舗の確認ができている。その「チョイ高品」とは通常品に対し２～３割高で単価が設定されており、希少性や味・産地環境を謳ってリーフレットやポスター、マネキン販売等でアピールしている。しかしリピートの決め手はやはり見栄えと味が重要視されている様だ。品目は棚持ちが良く触られても影響が少ない根物商品（タマネギ・馬鈴薯・ニンジン）が多かったが、ミニトマトを売り場のメインに置く店舗も増えている。またアボカドやレモン等の果物もバラ販売も出てきたおり品目は拡大している。筆者にも産地よりバラ売り商材の提案件数がこの処増加している。品目としてはカラーピーマン（パプリカ含）ミニトマトやカボチャ（白・オレンジ・緑）と色彩的なものと希少品種や限定商品の要請が多い。量販店が量重視から質重視へと変わっていくのではと市場関係者は注目している。

≪青果市況≫

葉物野菜を中心に青果物市況は下落している。キャベツは群馬が中心になりつつあるが東北産地の出荷も順調で、ある産地の地元市況はキャベツ１ケース（約10kg）で200～250円で推移している。ネギ類も下げが厳しい。市場関係者は台風等の自然災害の影響がなければ夏季期間は底値推移が続くとの見方が広がっておりさらに北海道産の出荷が本格的に始まれば市況低迷は決定的になると夏季産地は警戒している。

関東地方も梅雨明けし、いよいよ夏本番の到来しました。徐々に暑くなってはいたものの、夏本番の暑さはさすがに体に堪えますね。皆さんも熱中症や熱帯夜での寝不足などで、体調を崩されないようにお気を付けください。

編集事務局：南部、助川
電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp